

事例 24 滋賀県長浜市

人 口	61,118 人
高齢者数	10,778 人
高齢化率	17.63%
担当部署	高齢者健康福祉課

1. 市町村の概況

市
町
村
の
沿
革
・
概
要

長浜市は、琵琶湖東北岸の姉川がつくった扇状地の上に開けた町で、縄文時代にすでに人々の生活が始められ、5世紀頃からの豪族（息長氏）が台頭、大化の改新による条里制の施行やそれに続く荘園の興隆など日本の発展に足なみを揃えて成長してきました。まちの基盤は、豊臣秀吉公が今から約420年前の天正2年（1574年）に長浜城を築城したことにより整えられてきました。更に江戸時代中期に興ったちりめん産業が長浜の一層の繁栄をもたらし、町衆は経済力に支えられ、様々な文化を生み出し、今に続く「長浜曳山まつり」もその一例です。

この隆盛を受けて長浜の人々は明治に入ると、積極的に「文明開化」に取り組み、県下初の小学校や銀行をつくり、蒸気船や汽車を走らせ、近代的な製糸会社を創立させました。特に、長浜を中心とする鉄道は、敦賀－長浜－関ヶ原、つまり日本海と太平洋をつなぐ目的で、明治16年、東京－横浜、大津－神戸について開通しています。こうした長浜の発展は、商工業を主体とする町の歴史が培った町衆の進取の気性と、近畿・中部・北陸を結ぶ交通上の要衝という地理的条件、琵琶湖を望むそのほとんどが平野であるという地形的条件に負うものです。

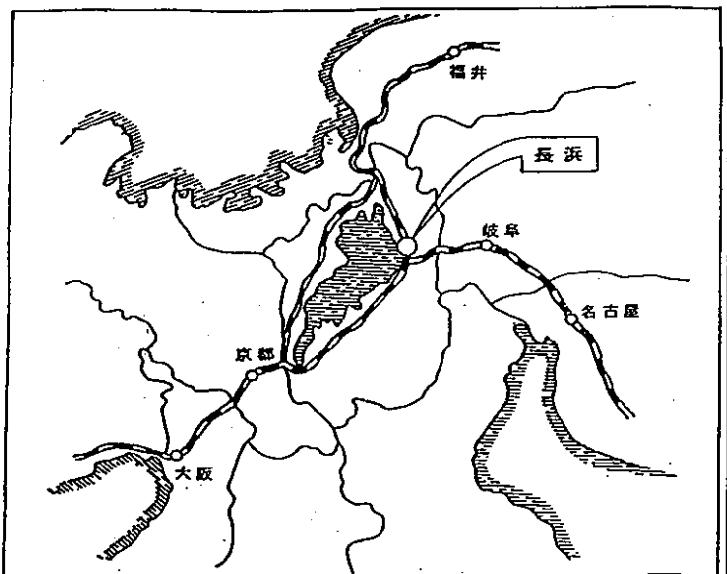
昭和18年4月1日、長浜町とその周辺6村が合併して市制を施行。戦後の混乱期を乗り越え、16万人の圏域をもつ湖北の中心都市として堅実な成長を続けてきました。

その後、昭和58年の市制施行40周年を迎えるに当たり、市民の間から長浜城再興の気運が盛り上がり、その浄財をもとに「長浜城歴史博物館」が完成。これを契機として地域に根ざしたまちづくりを進める理念として「博物館都市構想」が策定され、今日までその構想に沿った市民参画型の多彩な活動が展開されてきました。特に、平成元年に明治時代の黒壁銀行の建物の保存と活用を図るため、第三セクターとして黒壁ガラス館が、又、平成12年10月には曳山博物館がオープンし、現在では多くの来客者があります。

また、イベントも多彩で春の「長浜曳山まつり」、秋の「着物園遊会」と芸術版楽市楽座「アートイン長浜」、1月から3月にかけての冬の風物詩「盆梅展」などを開催し、全国から多くの観光客を集めています。

面積	45.53 km ²	
東経	東端	136度18分30秒（烏羽上町）
	西端	136度15分（相模町）
北緯	南端	35度20分25秒（小一条町）
	北端	35度24分50秒（今町）
距離	東西	8.5 km
	南北	8.2 km
海拔	最高	312 m
	最低	85 m
人口	59,626人	
世帯	19,968世帯	

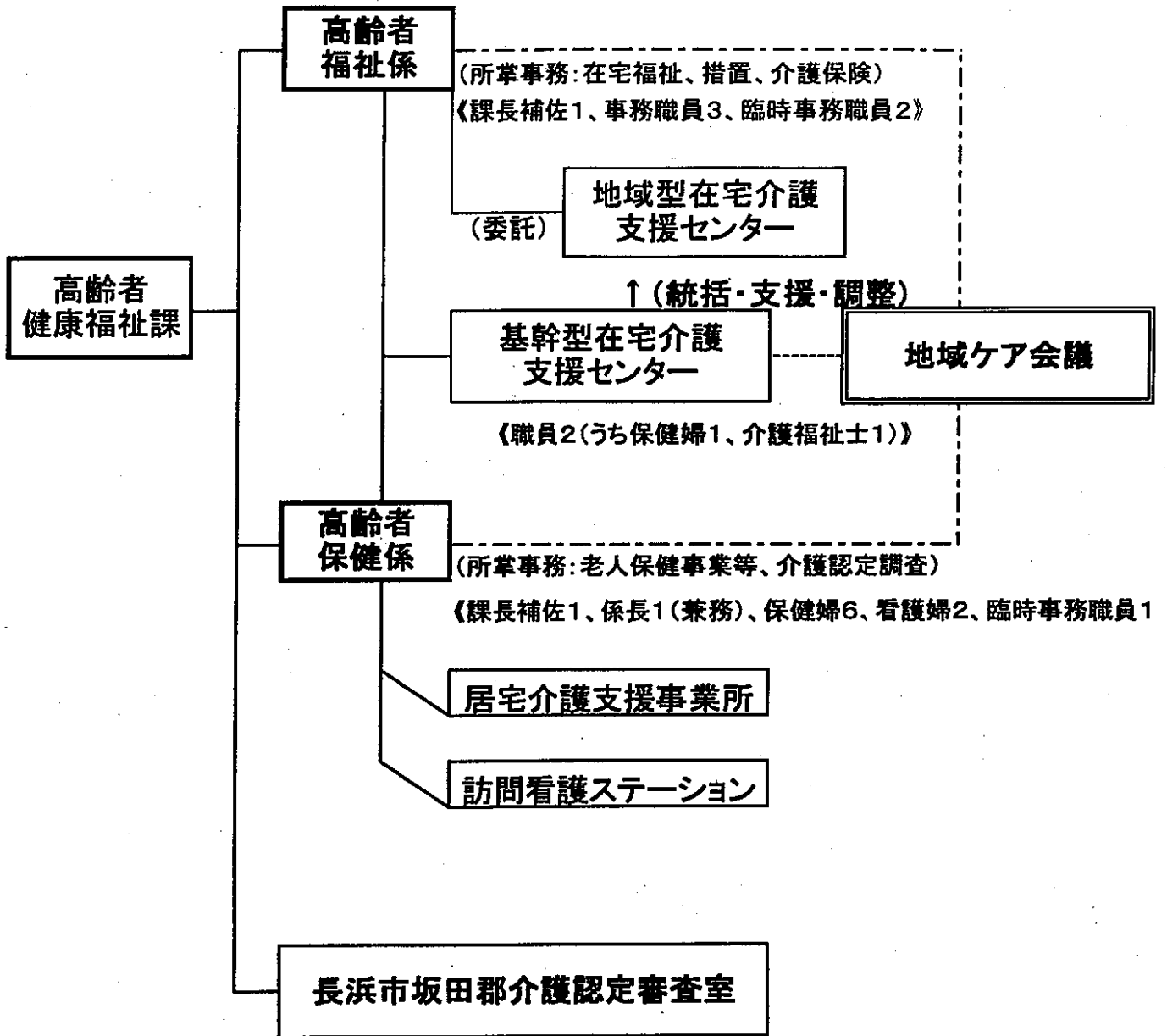
（平成12年4月1日）



(秘14年
1月1日現在)

人口	61,118 人		高齢者数(高齢化率)	10,778 人 (17.63%)					
世帯数	65 歳未満の者のみの世帯			65 歳以上の者のいる世帯					
	19,405			単独世帯	65 歳以上夫婦のみの世帯				その他
				1144	1499				4,728
要介護認定 (申請)者数	申請中	非該当	要支援	要介護 1	2	3	4	5	合計
			132	367	208	169	169	191	1236
社 会 資 源 状 況	指定居宅サービス事業所 (か所数)			訪問看護 (8)	訪問介護 (26)	通所介護 (15)			
				通所リハ (5)	短期入所系 (11)	その他 ()			
				※長浜市をサービス提供範囲とするサービス事業所 平成 13 年 8 月 1 日現在					
	指定居宅介護支援事業所 (か所数)			43 ヲ所 ※長浜市を範囲とする事業所 ※市内に住所地のある事業所はうち 14 ヲ所 平成 13 年 8 月 1 日現在					
保健センター 在宅介護支援センター (か所数)			保健センター		1 ヲ所				
			在宅支援センター		5 ヲ所				
			基幹型在宅支援センター		1 ヲ所				
介護予防事業の拠点と なりうる場 (か所数) (公的施設以外も含む)			西部 } 福祉ステーション 北部 } 東部 } 交流センター						
介護予防事業の担い手 となりうる組織・団体 (組織・団体数・人員数)			健康推進協議会		1				
			老人クラブ連合会		1				

2 高齢者保健福祉行政の組織図



3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「介護予防事業」に関連(類似)する事業がありましたか？</p>	<p>(○) 関連(類似)事業があった。→問2～問4へ () 関連(類似)事業はなかった。→問5へ</p>
<p>(問2) 実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？またその事業内容についてもご記入ください。 既存資料で、事業内容がわかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業実施の根拠(国庫補助事業、県単独助成事業)所管部局、事業内容(事業名、事業目的、対象者、実施回数スタッフなど)</p> <p>(回答) 事業実施の根拠→市単独事業 所管部局→長浜市健康福祉部高齢者健康福祉課 事業内容→別紙2参照</p>
<p>(問3) 上記事業の効果測定(評価)を行いましたか？</p>	<p>(○)行った () 行っていない ↓ (具体的方法) 教室終了後に参加者にアンケートをとった(別紙3参照)</p>

3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質問項目	回答欄
<p>(問4)</p> <p>従来 of 事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中心となった部局はどこか ・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？ 	<p>国が転倒予防事業を介護予防事業に位置づけたため、本市においても福祉部高齢者健康福祉課を中心に転倒ゼロ作戦を介護予防事業に位置付けして、平成13年度転倒予防教室4回シリーズ教室を計画するに至った。</p>
<p>(問5)</p> <p>(問1)で関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

4. 「介護予防事業の」の企画立案体制について

質問項目	回答欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような場を利用し、どのような機関・団体などと協議したのか？ ・ 学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？ ・ 高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？ ・ どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制はどうであったのか 	<p>企画、立案に関しては、県の研修に参加し、牧内先生の講演や地域保健の雑誌やその他転倒予防に関する図書を参考に練り上げていった。特に企画、立案の段階では高齢者やその家族、地域住民に参加してもらう機会はなかったが、前年度実施した講演会で住民に回答してもらったアンケートを参考にした。企画の段階から市民病院の理学療法士と打ち合わせを行い、協議した。又、地域振興局の保健婦や「理学療法士にも意見をもらった。</p>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業」を企画する際、下記の様な検討事項があったと思います。貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法) ・ 事業対象者の選定方法 ・ 事業に従事する人材をどのように確保するか？ ・ 既存の設備の利用が可能か？ ・ 新たな設備・整備が必要か ・ どの部局の事業予算をどのように確保するか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成12年度に行った地区別講演会でアンケートを実施しニーズの把握に努めた。 ・ 平成12年度は転倒予防の意識を啓発するため対象者は住民全体とした。その中でも、地域のリーダー的存在である民生委員や健康推進員、老人会会長に声をかけている。そのリーダーさんを中心に地域に啓発をしてもらい、転倒予防ミニ教室を開催し、要請のあった自治会や老人会に保健婦が出向き、知識の啓発と普及にあたった。平成13年度の転倒予防教室では体操を継続することで身体機能の向上が比較的望めそうな年代を対象にしたいと思い、前期高齢者に的をしぼって募集した。 ・ 事業に従事する人材は、常勤の保健婦とパート勤務している看護婦に声をかけて確保。 ・ 設備に関しては既存のものを利用。新たに準備する必要はなかった。

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問1)</p> <p>企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業目的、対象者、事業内容、開始時期、実施回数、(週、月)、実施体制(スタッフ、研修)事業予算、補助金、事業所管課、他課との連携(協力)体制</p> <p>(回答)</p> <p>別紙4参照</p> <p>事業予算 報償費 200 千円 消耗品 23 千円 補助金なし</p>
<p>(問2)</p> <p>住民に対してどのように事業を周知しましたか?</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報による周知 ・ 在宅介護支援センターや公民館、湖北地域振興局にポスター掲示とちらし(別紙5参照)を置く。 ・ 広報車での広報。

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問3) 「介護予防事業」実施状況（実績）について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況（実績）をまとめた資料があれば添付してください。</p>	<p>記入項目例：事業名、事業費 年間実施回数、 年間利用者数（実人数、延べ人数）</p> <p>※ 1年未満の事業の実施回数、利用者については、実施期間内での実績を記入して下さい。</p> <p>(回答) 別紙6参照</p>
<p>(問4) 現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<p>転倒予防教室4回シリーズ教室を行った目的として体操を家庭に取り入れて継続して行ってもらおうということがあったが、参加者のほとんどが体操時間に差があるものの継続して実施できていた。参加者同士の仲間作りということも重点を置いて取り組んだことで同じ目的を目指した参加者同士の仲間意識が芽生え、やる気につながったのではないかと思われる。教室終了後も体操を継続していると聞いているのでその点では目的は達成できていると感じられる。</p>

5. 「介護予防事業」の実施について

質問項目	回答欄
<p>(問5) うまく事業をすすめるために工夫している点などあれば記入して下さい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者同士のコミュニケーションをはかるため、レクレーションを取り入れながらすすめた。、又、最終の教室ではグループワークを取り入れ、参加者同士が意見を積極的に出し合い、感想や学びを深めてもらった。 ・ 教室終了後も体操が継続できるよう、転倒予防の体操を収めたビデオを作成。希望する参加者にダビングをしている。
<p>(問6) 今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<p>今回、対象者を4回とも継続して参加できる前期高齢者としたが、募集人数が少なかった。又、男性の参加も少なかったので、来年度の募集の際には工夫が必要である。(来年度の対象者は年齢制限を設けない予定)</p> <p>年齢制限をなくすことで、対象者の幅がでるので体操の内容・メニューを少し変更するか検討中。</p>
<p>(問7) 現時点で課題と感じている点に対して考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<p>問6に記載</p>

6. 「介護予防事業」の評価について

※ 行政が主体となって実施する（直轄、委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質問項目	回答欄
<p>(問1) 「事業ごとの評価」について伺います。 ①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p>	<p>(○) 行っている→②へ () 行っていない。</p>
<p>②具体的な評価方法について記入してください。 (評価指標、評価時期、評価者等) ※「事業ごとの評価」を行っている評価の指標があれば添付して下さい。</p>	<p><評価指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室終了後体操を継続しているビデオを作製したが、そのビデオを希望した人の人数。(今年度教室参加者に対して教室終了後フォローの教室を来年度4月か5月に行う予定ですが、その時期までに希望した人の人数) ・ またそのフォローの教室参加者の人数。 ・ 継続して体操を行っている人の人数 ・ 体力チェック結果を結果が出た時期で評価する。(t検定) <p><評価者> 保健婦</p>
<p>(問2) 「介護予防事業全体の評価」について伺います。 ①介護予防事業全体としての費用効果をどのように評価していますか？また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<p>検討中</p>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標があれば記入して下さい。</p>	<p>なし</p>

転倒ゼロ作戦（転倒予防教室）実施要項

1. 目的

寝たきりの大きな原因となる『転倒』を予防するため、『転倒ゼロ作戦』と題して、一般市民を対象に転倒予防教室を開催する。このことにより、骨折による寝たきりや入院・手術等の環境の変化から現れる痴呆等で、介護が必要な状況になることを予防し、健康で生き生きと自立した生活を保つことができる。

2. 事業内容

(1) 地区別講演会の開催

対象者 市内全域の住民

テーマ 「これから始める転倒予防ーからだ・生活・環境づくり」

内容 理学療法士による老化による身体的な変化、転ばないための歩き方・姿勢等の指導、生活・環境の整備、健康・体力づくりの具体的な方法等を実技をまじえて学習する。

会場 市内4会場（ふれあい神照・交流センター・郷里荘・六角館）

日程等

	開催月日	講師	会場
第1回	8月3日(木)	長浜赤十字病院 堀口 幸二、本庄 謙 理学療法士	ふれあい神照 (北部福祉ステーション)
第2回	8月10日(木)	長浜赤十字病院 久保田 浩彦、坂井 穂子 理学療法士	市民交流 センター
第3回	8月24日(木)	長浜赤十字病院 堀口 幸二、西堀 健二 理学療法士	郷里荘 (東部福祉ステーション)
第4回	8月29日(火)	市立長浜病院 藤井 三和子 理学療法士	六角館 (六荘公民館)

時 間 いずれも午後1時30分から午後3時

(2) 地域ミニ教室の開催

対象者 地区老人クラブ・自治会・婦人会等

内容 保健婦により、上記内容のミニ教室を行う。

会場 各町自治会館等

日程 9月以降に随時受付け、調整して実施。

3. 周知方法

- (1) 広報ながはまに掲載する。
- (2) 報道機関へ掲載依頼する。
- (3) 市役所・支援センター・健康福祉センターなどの関係機関の窓口にチラシを置く
- (4) 老人会・健康推進員などにチラシを配布する。
- (5) 講演会参加者に地域ミニ教室のチラシを配布する。

転倒ゼロ作戦（転倒予防教室）実施要項 別紙④

1. 目的

寝たきりの大きな原因となる『転倒』を予防するため、『転倒ゼロ作戦』と題して、一般市民を対象に転倒予防教室を開催する。このことにより、骨折による寝たきりや入院・手術等の環境の変化から現れる痴呆等で、介護が必要な状況になることを予防し、健康で生き生きと自立した生活を保つことができる。

＜転倒予防4回シリーズ教室＞
主に転倒を予防するための体操を学び、体操を生活に取り入れることで心身機能の低下を防ぎ、転倒を予防し、健康でいきいきとした生活を保つことができる。

2. 事業内容

(1) 転倒予防4回シリーズ教室

- 対象者：①概ね75歳まで（前期高齢者）の方。
②自分で会場まで来られ、4回とも参加できる方。
③教室内で学んだことを生活に取り入れて続けて行う意欲のある方
- テーマ：「転倒予防教室～いきいき体づくり～」
- 開催場所：市内4会場（ふれあい神照、郷里荘、六角館、西部福祉ステーション）
- 開催頻度：第1回～第3回は2週間おきに行う。第4回は第3回の教室が終了してから4週間後に行う。
- 定員：20名（募集人数が多い場合は抽選で決定する）
- スタッフ：理学療法士、保健婦、栄養士、
- 内容：

1回目	2/3回目	4回目
<ul style="list-style-type: none"> ・教室説明 ・アセスメント ・身体機能測定（6項目） ・体操の実施 進行：理学療法士（内容） 基本体操（7組） バランス体操（2組） 筋力増強運動（8組） 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック ・体操の実施 進行：理学療法士（内容） 基本体操（7組） バランス体操（2組） 筋力増強運動（8組） フットケア 靴の選び方 歩行の仕方 ・レクリエーション 進行：保健婦（内容） 転倒予防に関連したもの ・2回目：住環境 進行：理学療法士 ・3回目：食生活 進行：栄養士 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康チェック ・身体機能測定（6項目） ・体操の実施 進行：理学療法士（内容） 基本体操（7組） バランス体操（2組） 筋力増強運動（8組） フットケア ・まとめの話し合い グループワーク

開催時間：第1回・4回の教室は1：30～4：30
第2回・3回の教室は1：30～4：00

3. 周知方法

- (1) 広報ながはま・報道機関へ掲載依頼する
(2) 市役所・支援センター・地域振興局などの関係機関にポスターを掲示する

4. その他市が行っている関連事業

＜転倒予防ミニ教室＞

転倒予防の教室の依頼があった場合は、体操、栄養、住環境などについて1回限りの教室を実施する。

対象者：地区老人クラブ、自治会、婦人会など

＜骨粗しょう症予防事業～元気な骨セミナー～＞

骨塩定量測定を行い、保健婦、栄養士による骨粗しょう症に関する予防教育を行う

対象者：満30歳～満60歳になる女性

＜元気暮らし相談＞

家庭に理学療法士が訪問し、体に負担をかけないような動作の助言を指導をしたり、住宅改修の相談に応じている。

対象者：心身機能が低下しており、日常生活に支障をきたしている者

<結果>
募集人員

会場	ふれあい神照	六角館	郷里荘	湖鳥の里	合計
人数	16	13	14	9	52

教室参加人数(人)

	第1回	第2回	第3回	第4回	合計
ふれあい神照	14	11	9	7	41
六角館	9	7	9	9	34
郷里荘	12	12	11	11	46
湖鳥の里	8	7	7	8	30
合計	43	37	36	35	151

参加者の属性(性別及び年齢) (人)

	70歳未満	70歳以上	合計
男性	2	2	4
女性	30	16	46
合計	32	18	50

身体機能測定実施者(人)

	人数
初回のみ	8
最終回のみ	3
どちらも測定	32

事前にとったアセスメントでの体調について感じていること

	人数
特にない	23
疲れやすい	14
体力がない	8
階段の上り下りが辛い	8
体が固い	6
転倒しやすい	5
体が重い	3

(47名 重複回答)

その他:自転車の乗り降りが怖い

